

東京方面企業大学訪問

「東京方面起業大学訪問」。この二日間で得られたものは計り知れない。今後の高校生活、進路選択、そして人生について深く考えさせられた。

ディレクトフォースでの近藤さんの話は今後どの職について働くにしても、参考になるものであった。「色々な人や考え、価値観に触れること、楽しく仲間と働くことができること、お客さんに喜んでもらえることが大事。」という言葉が非常に印象に残っている。

講師の方との会話では、「自分の好きな仕事に就くことができれば、時にボコボコに叩かれたとしても嬉しいし、苦勞することはない。」「海外に出て働くときに大事になるのはうまい英語ではなくてグローバルな英語なんだ。」などとすばらしい助言をいただいた。

中でもキューピーの守屋さんの話が印象に残っている。「新製品を開発する際には、毎日起こる問題をどう解決するかだけを考えていた。1つのものを作るにはたくさんの技術に加え、みんなが助け合うことが最も大事。新製品を開発する際に1番気をつけている事は、事故を起こさない、食文化に合っているかどうかの2つ。」と私たちに話してくださった。また、「どの仕事について、どの役職についたとしても、与えられた場所でプロになれ。そうすれば上へ上へといくことができる。」と将来への助言をいただいた。やはりどこでも出世していくためには1つのことを極めていく必要があるなど感じた。今回皆さんの話を聞いて、自分の将来像がより具体的になり非常に良かったと思う。

次に私は、企業訪問で文化放送を訪問した。私たちを担当してくださった砂山さんに、放送中のトラブルについて聞いたところ、以前に外との中継が繋がらなくなったことがあるそうだ。このような時に経験の差が出ると砂山さんはおっしゃっていた。経験のあるベテランのアナウンサーだと様々な引き出しがあり、トラブルへの対処も優れていると言う。このことを聞いて、日常の様々なトラブルに対処するためには、日ごろの経験の蓄積が大切なのだと感じた。

テレビとラジオのアナウンサーの違いについて聞いたところ、「間」に大きな違いがあるとおっしゃっていた。ラジオは音のみで伝えるため、理解に時間かかる。意味の理解に0.45秒、内容の整理に0.3秒などと、0コンマ数秒を意識して間をとっているそうだ。また、伝わりやすさを重視するため、なるべく漢字を使わないようにしているらしい。最も難しいとおっしゃっていたのが発音で、1日に1つ以上は発音間違いをするとおっしゃっていた。また、出演者に対する配慮も欠かせない最も難しいとおっしゃっていたのが発音で、1日に1つ以上は発音間違いをするとおっしゃっていた。

また、出演者に対する配慮も欠かせないという。出演者の経験が浅い場合、頷く仕草を増やして安心感を持たせたり、つなぎのエピソードを多く用意したりする。逆に出演者の

方がベテランの場合、どれだけ変化球の質問を投げられるかが大事だとおっしゃっていた。進路選択については、自分の良いところを伸ばしていける仕事や自分がしたいことができる仕事に就くことができれば、多少辛いことがあったとしても乗り越えることができる、と助言をいただいた。

夜の座談会では、二高の先輩方から貴重なアドバイスをいただいた。最初にお話しした先輩は、いい大学に入ることだけを考えると、学部選びに失敗するということを教えてくださった。また、大学の授業についても聞くことができた。東大の授業が1コマ105分と非常に長い。大学の授業は自分で選択して受けるため、空き時間が長いことが多くある。その時は図書館食堂などで勉強しているようだ。サークルの活動などもあるため、高校時に比べると、朝早く夜遅い生活が続くとおっしゃっていた。

最も印象に残ったのは、2人めの先輩のお話だ。私はまだ自分の夢が明確になっておらず、この東京研修を切り何かのきっかけをつかみたいと考えていた。その先輩は「自分の夢が分からないと言う事は、自分を知らないことと同じ」とおっしゃっていて、「自信を持って自分の強みを言えるようになって欲しい。」と助言してくださった。私も、自分のことをよく知って、自分の軸ができればそれに向かって勉強できると思った。まずは自分を知ることから私も初めていきたい。

3人めの方は、毎日部活に行きながらも勉強と両立していた方だったので、私と共通点があった。その方は家が二高から遠かったようで、電車の移動時間等の隙間時間を利用して暗記物等をやっていたようだ。「隙間時間に勉強」のように当たり前に行われていることを当たり前に行うことが大事だとおっしゃっていた。また、東京での一人暮らしについて、自分の行動に責任を持つ上では非常に良いとおっしゃっていた。

4人めの先輩は、ひとりめの方と同じで、自分の興味のないもの履修すると、非常に辛いとおっしゃっていた。また、自分が受験では使わない科目もしっかりと学習することが大切だとおっしゃっていた。それがその後の大学の授業にもつながっている。今回4人の先輩方の話を聞いて、大学は偏差値で決めるものではなく、自分の興味に合わせて選ぶことが大切なのだと改めて知った。ブレない自分の軸を持つことが最も大切なのだ分かった。

東大研修では、日本最高峰の空気に触れることができた。朝の通勤ラッシュに始まり、駒場キャンパスの広さ、一つ一つの建物の大きさに圧倒された。東大の図書館にない本は日本にはないと言うほどの大規模な図書館は、一度利用してみたいと思った。

東大生とのワークショップでは、「進路を見つめ直す」ということで、自分の目標を達成するために何が必要か、これからどういう意識を持って行動していくことが大切か「進路を見つめ直す」ということで、自分の目標を達成するために何が必要か、これからどういう意識を持って行動していくことが大切か、などを東大生と共有することができた。東大生と言うとガリ勉なイメージがあったが、非常にやりやすい雰囲気を作ってくださり、接しやすかった。食堂は、日向の食堂より何倍にも広く、メニューも多くて、勉強に集中す

るにも良い環境だと感じた。

本郷キャンパスでの東大生の質問コーナーでは、12年生なので接しやすかった。食堂は、日向の食堂より何倍にも広く、メニューも多くて、勉強に集中するには良い環境だと感じた。本郷キャンパスでの東大生の質問コーナーでは、まずは教科書レベルの基礎を1、2年生のうちにマスターすることが大切だとアドバイスをいただき、今後の参考になった。

最も印象に残っているのは模擬授業で、非常に内容も濃く、深い知識、思考、判断能力が必要になって来る授業だなと感じた。難しいなと思ったが、自分の知りたい事がとことん追求できるようになっていて、大学の授業への期待が高まって。東大に限らず、大学は自分を伸ばし、成長させてくれる場所だと感じた。今後どの大学に住むとしても、この東大研修の経験は生きてくると感じた。

あっという間に高校生活の6分の1が過ぎようとしている。思い通りにいかなくて落ち込んだり、他の人に圧倒されたりしたが、この二日間で、自分は自分と言う心を持つ事は自分の今後の人生いつでも大切になってくることだと感じた。自分の人生を今後どうしていくのかは全て自分自身の問題だ。全て自分で決めていくものだ。今回話をさせていただいた方々も自分の人生を自分の力で良いものにしようと努力している方々。今後の人生を自分の人生が終わる時に満足のいくものにするために、進路選択は慎重かつ大胆に、自分の意思でしていきたい。時に壁にぶつかることもあると思うが、それさえも楽しんで、乗り越えていくような強い人間になっていきたい。